

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

思考力・判断力・表現力を高める授業実践

2 研究計画

(1) 研究のねらい

思考力・判断力・表現力の育成をねらいとし、それらが高めるためには、教師が課題をどのように設定したらよいのか、また、話し合いを発展させ、かつ内容を充実させるには、どう指導したらよいのか等について、教科の特性を考慮の上、各教科等において話し合い、追究していく必要があるのではないかと考え、研究主題を設定した。

(2) 学校課題の研究によって目指す生徒像

自ら学習を振り返り、より高い目標に向かって、意欲的に学ぶ生徒

(3) 研究目的・内容

学校課題に基づいて、主に以下の2点について、実践や検証をすることで、今後の学習指導の向上に資することを目的とする。

- ①各教科等における課題設定の工夫
- ②協働で課題解決を図る言語活動の充実

(4) 研究方法

- ①各教科等で単元ごとの目標を踏まえ、課題設定を行うとともに、有効と思われる授業形態や指導方法等を考える。
- ②思考力・判断力・表現力を高めるためには、どんな言語活動が有効かについて教科で話し合い、授業実践していく。
- ③授業における振り返り等を通して生徒の実態を分析し、言語活動の質の向上に努める。

(5) 研究計画

- | | | |
|---|-----------------------------|--|
| ① | 4月 | 各教科部会で研究計画の作成・研究のポイント・目指す生徒像の設定
評価計画・指導計画・課題設定についての検討 |
| | 4月19日 | 全国学力・学習状況調査実施（3年）
とちぎっ子学習状況調査実施（2年）
教研式標準学力検査（1年） |
| ② | 7月 | とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の分析
各教科で評価計画及び指導計画について検討 |
| ③ | 9月 | 全国学力・学習状況調査の分析
各教科部会で評価計画及び指導計画の修正及び自校化について検討 |
| ④ | 『言語活動』に関する研究授業・授業研究会の実施 | |
| | 9月 | 国語・理科・保健体育（S&Uコラボ事業・要請訪問） |
| | 11月 | 学活・道徳（要請訪問） |
| ⑤ | 12月 | 教科部会で研究報告の作成 |
| ⑥ | 道徳を語る会を実施 | |
| | 6月 | 各学年1クラス |
| | 12月 | 各学年1クラス |
| ⑦ | 学力向上プロジェクトに関する研究授業・授業研究会の実施 | |
| | 10月 | 数学 |
| | 12月 | 数学 |
| ⑧ | 県教育委員訪問授業 | |
| | 12月 | 社会・数学・英語の公開授業 |

3 研究内容

(1) 「思考力・判断力・表現力を高めるためどんな課題設定の工夫をするか」

- ・生徒の理解力を高めるための視点を設定し、教材から情報を適切に取り出せるように課題設定を工夫する。目的や意図に応じて内容を整理できるように、ワークシートに自分の意見を書き「思考」させる働きかけをする。また、課題を明確にすることと、常に「ねらい」がぶれないよう確認しながら授業を進める。(国語)
- ・「なぜ？」という疑問から考えざるを得ない授業が展開できるような学習課題の設定を心がける。(社会)
- ・日常生活で感じる些細な疑問などを感じ取り、それを課題にすることで、意欲的に取り組めるよう工夫する。(数学)
- ・習得した知識や技能があっても、判断に迷ったり、これまでの常識が揺さぶられるような課題設定を工夫する。(理科)
- ・合唱のパート練習において、「チェックポイント」を具体的に挙げ、練習場所に掲示し、段階を踏んで練習できる目安を提示する。(音楽)
- ・作品の鑑賞の際、アートカードを利用し、遊び的要素を加味して班ごとに鑑賞しやすい設定を作る。ワークシートの活用により、完成までのプロセスを明確化し、自己評価の項目も提示する。(美術)
- ・各單元ごとに学習カードを使用し、振り返りの時間を作った。自分の動きについて考えさせ、次時に生かすようにする。個々の能力に応じて段階を踏んだ課題設定の工夫をする。單元によっては複数で話し合い、認め合い、励まし合う時間を設定する。(保健体育)
- ・自分自身で試行錯誤しながらものを作り、完成する喜びを体験させるとともに、ペアで教え合うことで自分が学習内容を整理し、理解していく課題を設定する。(技術)
- ・課題を明確にして、幼児のおもちゃを制作する。「幼児の心身の発達」の学習で、事前に実際に訪問する幼稚園の園児の様子を年齢毎にVTRで確認し、課題を焦点化させる。(家庭)
- ・生徒に分かりやすい言葉で課題を設定し、授業のねらいを生徒と教師が共有し、目的意識をもって授業に取り組めるよう配慮する。また、課題をレベル分けする。(英語)

(2) 「思考力・判断力・表現力を高めるためにどんな言語活動を行うか」〈各教科から〉

- ①「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」言語活動を行う。
- ②話し合い活動の形態を工夫し、生徒同士の意見の交換がしやすい座席であったり、グループ構成であったりと、コミュニケーションがとりやすい授業を展開する。
- ③既習事項を元に答えを予想させ、自分の考えをある程度もたせたうえで、グループ活動を行う。段階を踏んで課題に取り組むことで、各個人の思考力が高まり、話し合い活動での表現力を高める。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①小グループによる話し合い活動を意図的に取り入れることにより、意見交換や協力して活動することが積極的に行えるようになってきた。また、自分の意見も自分の言葉で分かりやすくまとめる力が付き、表現力の高まりが見られた。そこで、新たな考え方を知ったり、理解したりすることができた。
- ②答えを予想する場面において、自分の考えと他者の考えを交流させることで、自分の考えの誤りに気付いて修正したり、望ましい意見に更新させたりしながら理解を深めていく姿が見られた。
- ③ある程度目標を達成すると満足してしまっていた生徒も、さらに改善点を探し出し、リーダーを中心に協働で高め合う様子がみられた。

(2) 研究の課題

- ①課題設定の難易度によって、できる生徒に限られてしまい「思考」がストップした。生徒の思考力を深めるため、教師は、生徒をいかに主体的に活動させるかの手立てをし、思考をつないでいきたい。
- ②話し合いを生徒任せにせず、ポイントや手順を明確に示して、主体的に取り組めるようにする。